

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2375000375		
法人名	医療法人 名翔会		
事業所名	グループホーム 和合の家		
所在地	愛知県愛知郡東郷町大字春木字白土1-1884		
自己評価作成日	令和4年12月27日	評価結果市町村受理日	令和5年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2375000375-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2375000375-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年1月6日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

緑豊かな自然に恵まれた環境の中で、「和き合いあいと暮らせる家」という基本理念のもと、第二の我が家を目指して、利用者と職員が共に支えあう家族のような笑顔があふれるグループホームです。  
 コロナ禍で外出や地域との交流を控えているが、利用者の意欲が低下しないようホーム内で出来ることを増やし、日々楽しく笑顔で過ごせるよう取り組んでいる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当ホームは1ユニットの少人数のホームである利点も活かしながら、日常的に職員間で利用者一人ひとりに合わせた支援内容の検討が行われている。毎日の生活の中で利用者ができる内容を検討しながら、感染症問題が続いていることで家族をはじめ外部の方との交流が困難になっている状況の中であっても、利用者の日常生活が単調にならないような生活の実現に取り組んでいる。利用者の外出についても困難な状況が続いているが、関連事業所と合わせて広い敷地が確保されていることで、利用者が日常生活の中でホームから外に出て散歩を行う機会がつけられており、室内での生活に限定されないような支援も行われている。ホーム内についても、リビングや居室が広い空間が確保されていることで、利用者が日常生活の中で閉塞感を感じないような生活環境がつけられている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の玄関やリビングに理念を掲示して目につきやすいようにし、「和き合うあいと暮らせる家」としてホームが第二の我が家になるよう、その人らしい生活、個性、価値観を大切にしたケアに日々取り組んでいる。	ホーム開設時からの理念を職員の支援の基本に考えながら、和気あいあいとアットホームな雰囲気をつくる等、管理者からも職員への働きかけが行われている。また、職員による振り返りの機会もつくり、理念の実践につなげる取り組みも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	外出や外食などは控えているが、天気の良い時などは施設周辺を散歩し、近所の方とあいさつを交わし交流している。	感染症問題が続いていることで、地域の方との交流が困難な状況になっているが、デイケア等の関連事業所では地域の方との交流を継続しており、事業所全体での取り組みが行われている。ホームでも近隣を散歩する等、可能な範囲で交流が行われている。	例年は、デイケアで行われているボランティアとの行事にホームからも参加する交流が行われており、今後の状況に合わせた、地域の方との交流の再開に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	毎年地域学生の職場体験を受け入れたり、町内の行事に参加することにより認知症の方の理解につながるよう心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	待機者、ヒヤリハットなどの運営状況を2ヶ月に一回報告書を作成し、高齢者支援課、地域包括支援センターに持参し意見をいただいている。	会議については、書面による実施が続いており、関係者には書面を通じた運営状況等の報告が行われている。町役場や地域包括支援センターに書面を持参することで情報交換等の機会につなげている。	会議については、書面による実施が長期化していることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、会議の再開につながることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	和合の家だよりを発行し、高齢者支援課、地域包括支援センターに持参し入居者の暮らしぶりや空き状況を報告し、いつでも相談できる関係を築けるよう取り組んでいる。	関連事業所を通じた関係部署との情報交換等も行われているが、当ホームでも、市町村の担当部署や地域包括支援センターとの情報交換等を行いながら、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日頃から身体拘束やスピーチロックなどしないように職員同士声をかけながら取り組んでおり、玄関などの施錠もセンサーなどを使用しただけ鍵をかけないようにしている。また併設の老健のカンファレンスにも出席し報告している。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者もエレベーターの操作ができることもあり、職員間で連携した利用者の見守りが行われている。また、関連事業所とも連携した身体拘束に関する委員会の実施や職員研修等も行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	入浴時など身体のチェックを行い見過ごさないようにしている。外部の研修に参加したり、内部研修を行い職員の意識統一をはかっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	外部研修などに参加し、継続して権利擁護について学べるようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前にご本人、ご家族と不安や疑問がないか十分話をして聞きだし、ホームでできること、できないことも説明を行い納得のうえ契約を取り交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	普段の何気ない会話から入居者の意見や要望などないか感じとり、ご家族の訪問時に、ケアプランの説明や近況報告の際に要望などないか伺う機会を設けている。	家族との交流が困難な状況が続いているが、ホーム建物1階の玄関先で面会の機会をつくりながら、可能な範囲で交流を継続している。家族からの要望等は管理者が対応している。また、毎月のホーム便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者が日頃気づいた点やスタッフからの提案を受けて、スタッフ全員から意見を聞くなどし、必要があれば法人代表者に相談しよりよいケアを目指した取り組みに心がけている。	1ユニットの少人数の職員体制でもあることで、日常的に職員からの意見等を管理者に伝え、業務改善等につなげる取り組みが行われている。また、関連事業所とも連携した会議も行われており、ホームからの意見等を報告する仕組みもつくられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年二回人事考課評価を作成し、代表者に報告することにより勤務状況を把握している。その結果をもとに賞与や昇給に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員のレベルに合わせてなるべく多くの職員が研修に参加できるよう計画をたて、外部、内部研修ともに業務内で参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	町主催の研修に出席し、近隣事業所との意見交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にできる限り、ご本人、ご家族に会い要望など直接話をし伺い、その情報をもとに書類で職員が共有し、利用者に受け入れられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の困っていること、不安なこと、要望などを相談時十分にききとり、入居前にGHに訪問していただいたり、連絡を行ったりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学や相談にみえた際、ホームの理念やサービスの内容など何ができてできないか説明し、ご本人ご家族と相談し話し合いケースにより他のサービスや施設の紹介など支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者と職員ともに支えあい、ご本人の得意な分野で力を借り、日々の暮らしがより穏やかに暮らせるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の訪問時、日常の様子を伝え気になることや気づいたことを相談し、ご家族にも協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在も馴染みの方との外出など難しい状況であるが、ご家族と一緒に昔からの主治医に受診へ行かれる方もあり、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	外部の方との交流が困難な状況が続いているが、入居前からの関係を継続している方もあり、ホームでも支援等が行われている。家族との外出についても、身内の方の冠婚葬祭等に出かけることができるように、関係の方と同じ話し合いが行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う方同士が食事やお茶を一緒に取れるようさりげなく配慮している。トラブルがあれば職員が間に入り、生活の中で得意なことや出来ることをお互いに認め合い支えあって生活していることに気づけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了までに、ケアマネージャー等と連携し次のサービス利用を支援している。その後の生活についても経過を把握し、必要があれば相談支援している。サービス終了時、「いつでも遊びに来てください」と声掛けして全員で送り出している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の会話の中で、あるいは表情や態度等で気づいたことも、全スタッフが共有し本人の意向にそえるよう、管理者を含めその都度検討している。希望に添えない場合は、代替案を提案するようにしている。	少人数の職員体制を活かしながら、日常的に職員による利用者に関する気付き等を管理者に報告し、職員間での共有につなげている。また、職員間でカンファレンスも行いながら、利用者や家族の意向等を日常の支援に反映する取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人、ご家族から収集した情報をもとに、職員全員が生活歴やライフスタイル、既往歴、家族背景、価値観などできるだけ把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活の中で、一人ひとりの体調や心身状態の変化に留意し、日誌やカルテに記録し申し送るなど全職員が気づきを共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日常的なカンファレンス等を通じて、状態等の変化の把握が行い、また介護記録については、ケース記録と一緒にファイルし、職員全員が把握、共有できるようにしている。	介護計画については、6か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。また、日常的にも特記事項等の記録を残しながら変化等の把握を行い、3か月でのモニタリングにつなげる取り組みも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	計画作成担当者が作成した介護計画を全スタッフが実践し、気づいたことや状況変化を記録し、その都度介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族の意向に応じて通院や往診を受けられるよう支援し、併設の老健において、行事の参加や車いすの方の機械浴での入浴など個々に合ったサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の盆踊りやもちつきなどに参加し交流を深めたり、散歩や買物へ行った際あいさつをかわし馴染みの関係が築けるようにしていたが、現在もコロナ渦のため自粛している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の受診時には、ご家族にご本人の変わったことや普段の様子を伝え主治医に相談してもらったり希望があれば職員が付き添うこともある。併設にクリニックもあり月1～2回定期受診される方もみえる。	ホーム建物1階に開設している運営法人の関連の医療機関との連携が行われているが、多くの利用者が今までのかかりつけ医を継続しており、家族の支援で受診等の対応が行われている。また、関連事業所の看護師との医療面での連携も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	クリニックと老健が併設しており、看護師が配置しているため、気軽に相談できる関係が築かれている。ケガ、昼夜急変時に応急処置など支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な場合は、ご家族に連絡し管理者が付き添い安心して入院していただいている。入院中は、関係者やご家族から経過を聞くなどして把握し、早期に退院できるようアドバイスするなど支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時管理者が終末期や延命治療の希望等を確認し、書面で記録しているため全スタッフが把握している。その時が来たと思われる場合は、管理者がご家族に希望を再確認し、出来ること出来ないことを十分説明し方針を理解したうえでケアに取り組むことになっている。	身体状態が重い方についても、ホームで可能な支援が行われているが、多くの方は医療機関への入院による対応が行われている。ホームでの生活を継続しながら家族との話し合いを重ね、医療機関や特養等、次の生活場所への移行支援も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時マニュアルがあり、いつでも見れるよう掲示してある。また、消防署で実施している普通救命講習を全職員参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回昼夜を想定して避難訓練を行っており、入居者も参加し消火訓練や、職員による避難誘導を行い意識づけしている。	避難訓練を関連事業所と合同で実施することで、事業所間で連携した対応につなげている。通報装置が1階の医療機関に設置されており、職員への周知も行われている。備蓄品については、当ホーム内及び関連事業所内に確保する取り組みが行われている。	建物に設置されている通報装置の誤作動が起きたこともあり、職員に対して、改めて通報装置に関する周知が行われている。関連事業所との連携と合わせて、ホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉がけなどさりげなく注意しながら行い、個人の情報はイニシャルを使用しメモなどの使用済みの物はシュレッダーにかけ誇りやプライバシーを損ねないようにしている。	基本理念にも掲げられているような利用者と職員が和気あいあいとした関係をつくることできるように、職員による利用者に関する対応に関する注意喚起等が行われている。また、職員の接遇にもつながる研修も実施しており、職員の振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ふだんの何気ない会話から、ご本人の希望をくみ取れるよう寄り添い、一人ひとりの能力に応じた声かけや働きかけを行い選択肢を出して自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの生活のペースを大切にし、起床・就寝時間や食事の時間も一律でなく、出来る限りご本人の生活リズムに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理美容の利用を控えているが、美容師の免許を持っている職員がいるので、ご家族様に同意を得てカットしおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりのできることを職員が把握し、一人ひとりの力を活かしながら協力していただき、時にはアドバイスを頂きながら、食事の準備片づけをしている。	食事については、職員でメニューを考え、食材を買い物して調理が行われており、利用者もできることに参加している。定期的に食事を外部から取り寄せたり、季節等にも合わせた食事の提供やおやつ作りも行われており、利用者の楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	それぞれに合った食事、水分の形態を提供し確保できるようにしている。体操後や散歩入浴後などおやつ以外の時間以外でも水分が摂れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後自分で行える方は見守りをし、介助が必要な方もできるだけ自分自身で行っていただき、職員が仕上げを行うなど一人ひとりにあった口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりの力や排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行っており、誘導時やパットの交換時などの声かけをご本人の気分を害さないように気をつけて支援を行っている。	利用者の排泄に関する記録を残し、日常的にも職員間で情報交換等を行いながら、一人ひとりに合わせた支援につなげている。9部屋のうち7部屋には居室内にトイレが設置されており、利用者の状況に合わせたベッド等の配置も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	繊維質が多い食材を積極的に取り入れ牛乳や水分を多くとっていただいている。毎日ラジオ体操や天気の良い日には散歩に出かけ身体を動かすようにして便秘の予防に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	曜日や時間帯を決めずに毎日入浴できるようにし、時間などを変え声かけを行ったり、個々にそった支援を行っている。	利用者が週2～3回の入浴ができるように支援が行われているが、それ以上の回数も行われている。浴槽部分に段差があることで、利用者の中には職員2名での対応も行われている。また、入浴剤や季節等にも合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中、リビングでも横になっていただけるよう畳のコーナーがあり、ソファも多く配置し一人になれる空間もある。夜間は、安眠できるよう室温調整などこまめに行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の内容が記入した服薬ファイルを作成し、職員が内容を把握できるようにしている。薬の変更などがあった場合には、入居者の状態に変化がないか観察に努め変化があればご家族や主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの生活歴や普段の何気ない会話などから得意分野を見つけ出し力を発揮して頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気がいい日は、施設の周りを散歩したり地域の方々といっしょに交わり、交流し気分転換をはかっている。	利用者の外出が困難な状況が続いているが、関連事業所と合わせて敷地が広い利点も活かしながら、季節や天候等に合わせた敷地内を散歩を行う機会をつくっている。また、敷地内には樹木も植えられていることで、季節を感じてもらえるような機会もつくっている。	利用者の外出行事が中断している状況が続いていることもあるため、今後の状況等もみながら、外出行事が再開されることを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外食時等職員が見守り支払えるよう支援し、ご本人の希望により、ご家族と相談し少額のお金を持たれている方も見える。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人持ちの携帯電話を取り次いだり、ご家族にホームから連絡した際、電話をご本人に取次ぎコミュニケーションが取れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングには、利用者が描いた絵や懐かしい写真から最近の写真までいろいろ飾り、ソファや椅子を多く配置してくつろげる空間を作っている。季節の行事を大切にしながら人形、クリスマスツリー、正月飾り等飾ることにより家庭的な雰囲気を作っている。	ホーム内は広く、ゆったりとした空間が確保されている他にも、ホーム内の複数の場所にソファの配置も行いながら、日常生活の中で閉塞感を感じないような生活環境がつけられている。また、季節等にも合わせた飾り付けを行う取り組みも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合った方同リビングでくつろげる方もあるが、独りになりたい時には離れた静かな所にソファを配置し落ち着いてくつろげられるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には、ご本人ご家族と相談しできるだけ馴染みのある使い慣れたものを持ってきていただき居心地よく過ごせるようにしている。	居室については、広い空間が確保されていることで、居室内にソファ等も置かれており、利用者や家族の意向等にも配慮した居室づくりが行われている。また、利用者が入居前に作った自身の作品を持ち込んだり、家族の写真を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自室入口にネームプレートや写真をご家族の了承を得て飾ったり、トイレの場所が分かるように目印をつけたり、自立した生活が送れるよう支援している。		